

■コーナー監修

古山登隆

FURUYAMA Nobutaka

医療法人社団喜美会

自由が丘クリニック理事長

Skill UP for Specialist

正しい施術とトラブル解決を学ぶ

医療法人社団喜美会
自由が丘クリニック副院長

兵頭徹也
HYODO Tetsuya

vol.10

スレッドリフト

スレッドリフトは日本美容外科学会(Japan Society of Aesthetic Plastic Surgery ; JSAPS)の統計上は外科的手術の項目に分類されるが、実際にはメスで切開したり糸で縫合したりする必要のない施術が大半を占めており、埋没式重瞼形成術とともに比較的侵襲な治療として近年ニーズが高まっている。また、リスクやダウンタイムが比較的小さいノンサージカル治療の件数が国内外問わず増加しているなかで、注入療法や医療機器を用いた治療で十分な効果を実感できず、より大きな効果を求める場合の治療の選択肢としても注目されている。糸の種類は多岐にわたり、刺入のテクニックなども多様に存在し、幅広い治療が可能である。

適応の有無

いわゆる「たるみ」の症状の訴えがある場合に適応となる。皮下脂肪が極端に少ない、余剰皮膚が多い、または弛緩が強い場合などは、限定的な適応、あるいはほかの治療との併用が必要になる。なお、使用する糸の種類によっては、若年層に対する将来的な「たるみ」の予防として適応となる場合もある。

人数(手術に必要な人員)

- 施術者：1名
 - 直接介助者：1名
 - 間接介助者：1名
- 感染を防ぐために清潔野を展開して施術することが望ましいため、上記の人数が理想的である。

体位

- 仰臥位
側顔面への操作が必要な場合が多いため、状況に応じて首を左右に振っていたり、また、重力下での治療効果の判定を行いつつ施術を進める場合は、リクライニング機能のある手術台が有用である。

麻酔

局所麻酔(1%エピネフリン含有リドカイン麻酔液[原液および生理食塩水2~4倍希釈液])患者の希望により、笑気(亜酸化窒素)やドルミカム®(ミダゾラム)などを用いた鎮静下での施術、または静脈麻酔や全身麻酔下での施術も検討する。その場合は麻酔科医師に管理を依頼することが望ましい。

手術器具

- 鈍針(25G×40mm~23G×90mmなど)
糸の刺入部位に希釈した麻酔薬を注入する際に使用する。注入量が多いと糸の引っ掛かりが弱くなるため、径の細く短いものを使用することが望ましい。90mmのものは糸の長さと同程度であり、1カ所の刺入点から注入できるメリットがある。
- 鋭針(23~16G)
糸の刺入点を開けるために使用する。糸の誘導針や外筒の径に応じて変更する。
- アドソン無鉤鑷子
- フックつき鑷子
- マイクロ鑷子
- スキンフック など
糸の絡まりやdimpleの解除に用いる。糸の把持には無鉤鑷子、皮膚の把持には有鉤鑷子やフックを用いる。
- 筋鈎
- 万針キャップ など
誘導針タイプの刺入の際にcounter tensionをかけるために用いる。鈍的な器具が望ましい。
- 糸切用剪刀

SAMPLE